

ごはん

「侍タイムスリッパー」の 安田淳一監督作品

稲穂の草原を渡る風が
彼女の髪を撫でる時、
美しい「奇跡」が起こる。

12.6
(日)

会場：朝倉地域生涯学習センター 文化ホール
上映開始 ①午前10:30～ ②午後2:00～
※開場は上映開始30分前

全席自由 チケット料金 500円

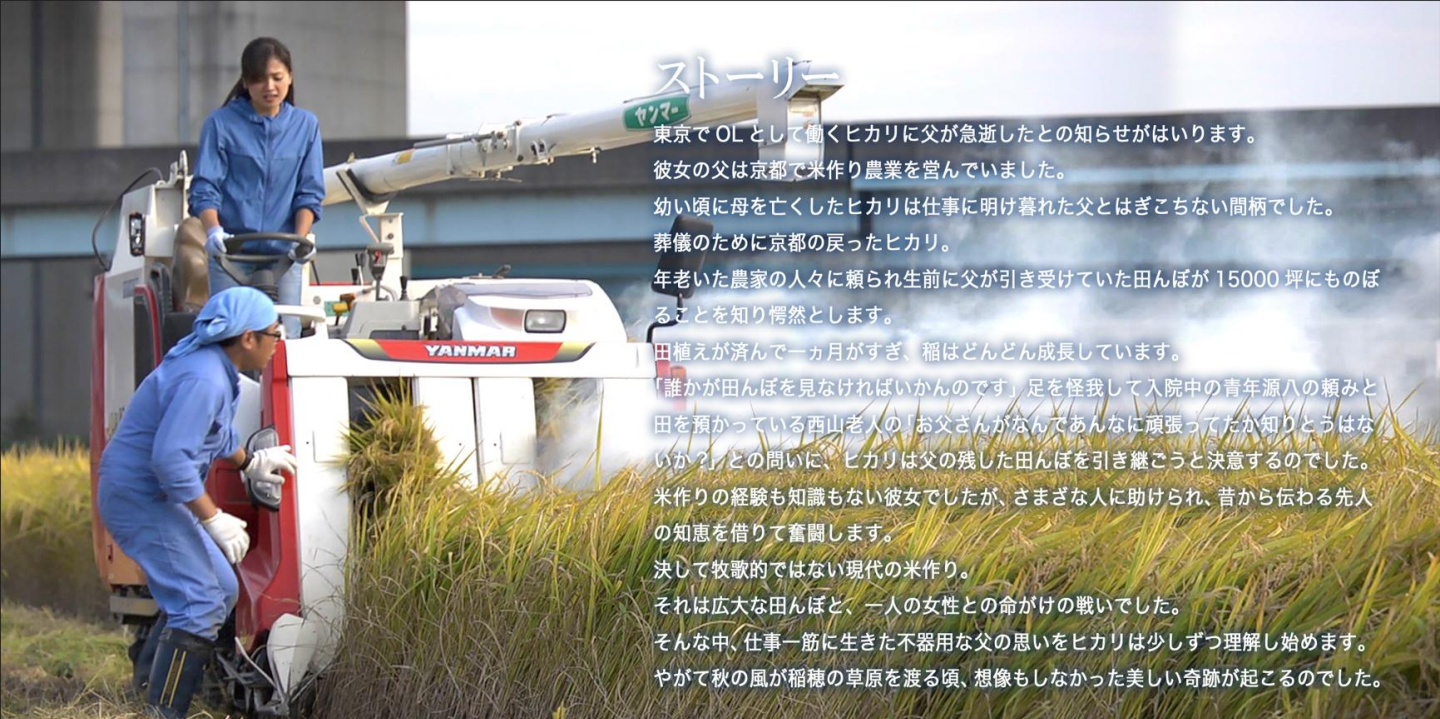
チケット発売日 10月7日(水)

チケット販売場所 ・朝倉地域生涯学習センター
・ピーポート甘木 ・らくゆう館(杷木地域生涯学習センター)

※未就学児入場不可。託児をご利用ください。

(11/6(金)までに要予約・1人500円)

未来映画社



ストーリー

東京でOLとして働くヒカリに父が急逝したとの知らせがはります。

彼女の父は京都で米作り農業を営んでいました。

幼い頃に母を亡くしたヒカリは仕事に明け暮れた父とはぎこちない間柄でした。

葬儀のために京都の戻ったヒカリ。

年老いた農家の人々に頼られ生前に父が引き受けていた田んぼが15000坪にものぼることを知り愕然とします。

田植えが済んで一カ月がすぎ、稲はどんどん成長しています。

「誰かが田んぼを見なければいけません」足を怪我して入院中の青年源八の頼みと田を預かっている西山老人の「お父さんがなんであんなに頑張ってたか知りとうはないか？」との問いに、ヒカリは父の残した田んぼを引き継ごうと決意するのでした。米作りの経験も知識もない彼女でしたが、さまざまな人に助けられ、昔から伝わる先人の知恵を借りて奮闘します。

決して牧歌的ではない現代の米作り。

それは広大な田んぼと、一人の女性との命がけの戦いでした。

そんな中、仕事一筋に生きた不器用な父の思いをヒカリは少しずつ理解し始めます。

やがて秋の風が稲穂の草原を渡る頃、想像もしなかった美しい奇跡が起こるのでした。

優れたフィクションだけが持つ魔法の瞬間

農家の長男であり、映画にも携わっている身で書かせてもらおうと米づくりは映画に似ている。

とにかく手間も金もかかるし、予想もしないトラブルばかり起こる。積み重ねた努力は台風一つで水の泡になる。そして、何よりも報われることがほとんどない。

しかし、『ごはん』が描き出すのは、そんな損得勘定から外れた人間の営みの美しさだ。

沙倉ゆうの演じるヒロインは、若くして米づくり農家の仕事を引き継ぐことになる。

彼女は夏の厳しい日差しの中でも田んぼに水を引いて回り、

収穫の秋には稲刈りに精を出す。そこに見返りはない。しかし、その純真が周囲の人々を巻き込んでいく。

黄金色の稲穂の海で働き続ける彼女のシルエットは、まるで王蟲の群れを渡る王女のような。

そう、沙倉ゆうのは農業地帯に舞い降りた、ゴム長靴姿のナウシカなのである。

そして、ヒロインは農業、いや全てのものづくりに携わる人間のプライドを代弁してあげる。

現代人が気にも留めていない風景にこそドラマがあるのだと『ごはん』は訴えかけてくる。

なんの変哲もないことは、なんの価値もないことと同義ではない。

本作のもう一人の主演は他ならぬ田んぼそのものである。

苗から稲穂への成長はもちろん、雑草や小さな虫にいたるまで慈しみに満ちた視点が映像に宿っている。

それらが画面に映し出されるたび、誰の目にも映らなかった全ての精霊たちに名前が与えられるような崇高さが胸に迫ってくる。

優れたフィクションだけが持つ魔法の瞬間がきっとあなたを待たう。

そして思い出す。我々はその名前を知っていたはずだ、と。

『ごはん』はあなたの日常を一変させる作品である。

本作を見終わった後、あなたが家で口にする米粒の一つ一つはどんな味がするだろうか。

魔法の余韻はあなたの食卓にまでつながっていく。

文＝石塚就一（映画ライター・京都在住）



【会場情報】

朝倉地域生涯学習センター

〒838-1302

福岡県朝倉市宮野1997

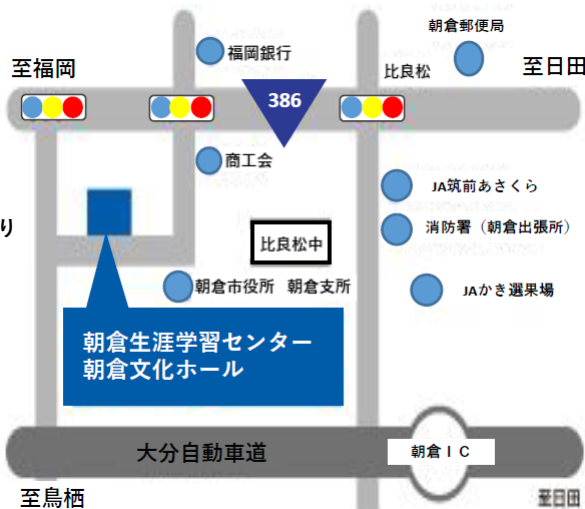
問合せ先 ピーポート甘木

☎ 0946-22-0001

【お車で越しの方】
・朝倉インターより約4分

【バスで越しの方】
・西鉄比良松中学校前バス停より
徒歩約2分

・高速バス（高速朝倉）より
徒歩約15分



朝倉市自主文化事業



いろんな
イベント
やってるよ